SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

# 母子相互作用場面における乳児の発声行動の分析 (研究の成果発表)



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2020-05-13<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 成田, あゆみ, 北, 義子, 西村, 雅史<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/10297/00027476 |

## 母子相互作用場面における乳児の発声行動の分析

成田あゆみ(情報学専攻/国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション部言語聴覚療法)，北義子（国立障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科），西村雅史（学術院情報学領域）

生後１～２ヶ月の乳児の音声と、母子間のコミュニケーションの変化を検討するため、母子相互作用場面における発声・発話行動の分析を行なった。対象は女児１名とその母親の母子１組とし、母親に注意が向いている場面で発声された乳児の音声と、母親の応答的な発話とのタイミングややりとりの継続性などを検討した。ここでは乳児と母親の発話区間を正確に切り分けられるよう、外部騒音に頑強な咽喉マイクを使用した。その結果、生後１ヶ月時には反射的な発声がほとんどであり、生後２ヶ月時になるとクーリングが観察され母子のターンテイキングが観察された。この結果より、生後２ヶ月頃には母子間で発声でのやりとりが観察され始めることが示唆された。